

2024年7月28日

「やまない雨はない」

創世記 8:1-5

使徒言行録 4:32-37

坂元 高牧師

NHK でお天気キャスターを永らく勤めていらっしやった倉嶋 厚さんが晩年お書きになられた『やまない雨はない』というご本に感銘を受けましたので、その紹介をさせていただきます。

倉嶋さんは、重い病で倒れられた奥様を十数年もの間、看病なさり、奥様を励まし続けたのですが、「自分が痛みには耐えられない、弱い人間だったので妻には痛みのない安らかな最期を用意してあげたい一心で、向かいあってきたのですが、妻のためにもっと真正面から立ち向かおうとせず、余りに早くあきらめてしまったのでなかろうか、もっと違った治療の選択があったのではなかったのか。」とご自分を責めてばかりいました。

ついには、倉嶋さんは、「そんな、妻の病に消極的であったこの自分が妻を死なせてしまったんだ…という罪の意識から、来る日も来る日も、そこから逃れたいという思いで頭が一杯で“この自分が死ぬしかない。”」ついに、精神病院に入院してしまいました。

しかし、その時倉嶋さんは「もうこれ以上、悪くなりようがない、落ちる所まで落ちこんでしまった。どん底だ、あとは上向きだ。」そう思えたとき、倉嶋さんにはもう苦しみはなくなったのです。人間上に上がればいつかは落ちる、人生も病も同じではないでしょうか。

“やまない雨はない、そんな雨は降ったことがない”昔からそう言われて来たように、永遠と続く晴れの日もなければ、終わりのない雨の日もありません。「だから、もう、明日の事は思い煩うまい、今日を精一杯生きて行こう。」と倉嶋さんはそのようにご本の終わりに結んでおられます。

ひるがえって、私たちの人生においても、時に大雨や嵐という試練に出会ったとしても、イエス・キリストという大きな愛に助けられ、勇気付けられて再び、三度、起き上がることが出来るのではないのでしょうか。「きっとこの雨は上がる」と信じて、主に守って頂きながら、歩みを続けていこうではありませんか。